

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪大学歯学部附属病院歯科医師臨床研修センター
教育プログラム・コース名	大阪大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 多職種連携に資するリサーチマインドを持った指導的歯科医療人養成コース
対象者	研修歯科医
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	・口腔機能、栄養摂取の評価、高齢者の内科的疾患、認知機能、運動機能の簡単な評価ならびに多職種連携の必要性を理解し、実践できる、リサーチマインドを持った研修歯科医
修了要件・履修方法	修了要件： コース受講後にレポートを提出し、担当教員による口頭試問に合格すること。【大阪大学歯学部附属病院歯科医師臨床研修センター選択コース】 履修方法： 次項の履修科目内容のコース（学部教育における1単位相当分・30h分）を新設し、希望する研修歯科医5名程度に選択履修させる。次項の内容は既存の研修を高度化させるものであるが、厚生労働省に認可されたプログラムの範囲内であり、認可申請を待たずとも開始可能である。
履修科目等	<大阪大学歯学部附属病院歯科医師臨床研修センター選択コース> 多職種連携に資するリサーチマインドを持った指導的歯科医療人養成コース ・研修方法： 各日2名ずつローテーションで、H26年10月から1日に6時間の実習を年間5回研修させる。各研修医は年間計30時間分（学部教育の1単位相当分）のコース研修を行う。 ・ガイダンス： 実習初日に実習内容を説明し、学習目標を設定 ・研究現場同行： 高齢者の健康に重要な、栄養摂取、内科的疾患、認知機能、運動機能の評価方法を理解し実践する。 ・調査後： データの入力、整理を行う。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	大阪大学では、老年学研究会が中心となり、都市部と農村部において、70歳、80歳、90歳の方を計1200名登録し、健康長寿についてのコホート研究を行っている。歯学のみならず、医学系（老年内科学、看護学）、人間科学（社会学、心理学、運動学）の各研究科、地域の行政（保健師など）が参加している。この共同研究に参加し、それぞれの観点を学び、 <u>口腔機能のみならず、栄養摂取、内科的疾患、認知機能、運動機能の評価方法を実習することに新規性かつ独創性がある。</u> <u>高齢者を対象とした総合診療と研究に必要な人との交流を図り、異分野連携に貢献する資質を涵養することを期待できる新規性及び独創性の高いプログラムである。</u>

指導体制	<p>教育プログラム統括： 大阪大学・前田芳信教授（歯学研究科，有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野）</p> <p>担当教員： 大阪大学・神出計教授（医学系研究科，老年内科） 大阪大学・権藤恭之准教授（人間科学研究科，臨床死生学・老年行動学） 大阪大学・北村正博准教授（歯学研究科，歯周病学分野） 大阪大学・池邊一典講師（歯学研究科，有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野） 大阪大学・松田謙一助教（歯学研究科，有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野）</p> <p>実習協力者： 大阪大学・小川泰治医員，榎木香織医員，岡田匡史医員（有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野）</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	大学院教育の目的の一つである、健康長寿社会を実現する指導的臨床家の育成につなげる。						
受入開始時期	平成27年10月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	大阪大学歯学部附属病院研修歯科医	5	5	5	5	5	25
							0
							0
							0
	計	5	5	5	5	5	25

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪大学大学院歯学研究科
教育プログラム・コース名	大阪大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 異分野連携に資する歯科医学研究者養成演習
対象者	博士課程大学院生
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	・口腔機能、栄養摂取の評価、高齢者の内科的疾患、認知機能、運動機能の簡単な評価ならびに多職種連携の必要性を理解し、実践するにあたり指導的能力を持った臨床研究のリーダー
修了要件・履修方法	修了要件： 実習後に研究結果を提出し、担当教員による口頭試問に合格すること。 【大阪大学大学院歯学研究科選択コース】 履修方法： 次項の履修科目内容の 実習（1単位分・30時間の演習）を新設 し、希望する大学院生3名程度に履修させる。
履修科目等	<大阪大学大学院歯学研究科選択科目> 異分野連携に資する歯科医学研究者養成演習（1単位，6時間×5回で30時間） ・実習方法： 各日2名ずつローテーションで、H26年10月から1日間（180分2コマ・6h）の演習を年間5回履修させる。各大学院生は年間計30時間分（1単位分）演習を行う。 ・ガイダンス： 初日に実習内容を説明し、学習目標を設定 ・研究現場同行： 高齢者の健康に重要な、栄養摂取、内科的疾患、認知機能、運動機能の評価方法を理解し実践する。 ・調査後： データの入力、整理、統計分析を行う。 ・データをまとめ、学会発表を行う。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	大阪大学では、老年学研究会が中心となり、都市部と農村部において、70歳、80歳、90歳の方を計1200名登録し、健康長寿についてのコホート研究を行っている。 <u>歯学のみならず、医学系（老年内科学、看護学）、人間科学（社会学、心理学、運動学）の各研究科、地域の行政（保健師など）が参加している。この共同研究に参加し、それぞれの観点を学び、口腔機能のみならず、栄養摂取、内科的疾患、認知機能、運動機能の評価方法を実習することに新規性かつ独創性がある。</u> 高齢者を対象とした総合診療と研究に必要な人との交流を図り、 <u>異分野連携に貢献する資質を涵養することを期待できる新規性及び独創性の高いプログラム</u> である。

指導体制	<p>教育プログラム統括： 大阪大学・前田芳信教授（歯学研究科，有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野）</p> <p>担当教員： 大阪大学・神出計教授（医学系研究科，老年内科） 大阪大学・権藤恭之准教授（人間科学研究科，臨床死生学・老年行動学） 大阪大学・北村正博准教授（歯学研究科，歯周病学分野） 大阪大学・池邊一典講師（歯学研究科，有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野） 大阪大学・松田謙一助教（歯学研究科，有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野）</p> <p>実習協力者： 大阪大学・小川泰治医員，榎木香織医員，岡田匡史医員（有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野）</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	大学院教育の目的の一つである、健康長寿社会を実現する指導的能力を持った臨床研究のリーダーを輩出する。						
受入開始時期	平成26年10月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	大阪大学大学院歯学研究科 大学院生	3	3	3	3	3	15
							0
							0
							0
	計	3	3	3	3	3	15